

都小研 会報

・発行所
 ・東京都小学校社会科研究会
 ・東京都新宿区四谷2-6
 ・発行人 石井正広
 ・編集人 西谷秀幸

「全国大会の研究成果を 引き継いで新たな一歩へ」

東京都小学校社会科研究会会長
 新宿区立四谷小学校校長

石井正広



二月二十一日(金)、板橋区立上板橋第四小学校において、東京都小学校社会科研究会(以下、都小社研)研究発表会を開催しました。会場の先生方を含め約三百名が参加する会となりました。令和元年度に世田谷区立高山北小学校で開催して以来、コロナ禍と全国大会前年のプレ発表会や本発表会をはずんで、五年ぶりの本格的な研究発表会となりました。

全体会講師の小倉勝登様(文部科学省教科調査官)、ご来賓の林栄喜様(板橋区教育委員会事

務局次長)をはじめ、研究授業講師、都小社研顧問・OBの皆様には、ご多用の中、多数のご臨席を賜りました。改めて心より御礼申し上げます。

公開授業は、三年から六年までの全学級において上板橋第四小学校の先生に授業者をお引き受けいただきました。九月から都小社研の研究推進委員と協働して授業検討をすすめ、三年生は「板橋区のうつつりかわり」、四年生は「豊かな自然を守り生かす小笠原村」、五年生は「自然災害とともに生きる」、六年生は「地球規模の課題解決と国際協力」の授業を公開しました。授業では、子供たちと先生とが生き生きと授業を展開していました。研究主題にある「社会とつながり未来を創る子供の育成」

の実現について、子供の学ぶ姿で見る事ができました。上板橋第四小学校の先生のご努力に感謝と敬意の意を改めてお伝えさせていただきます。

さて、都小社研では、今年度の活動目標を「東京大会の成果を継承・発展させ、十年後の全国大会の基盤をつくる」として次の五点に取り組みました。

- (1)大会研究主題を継続し、研究成果を都内に広く周知することを通して、大会研究主題に基づいた研究をさらに発展させる。
- (2)学年部会ごとに研究主題及び研究内容を設定し、創意工夫した実践的研究を推進する。
- (3)十年後の全国大会を見据えた人材育成を目指し、都小社研独自の研究員制度を立ち上げて基礎的実践研究に取り組む。
- (4)夏季研究会でのワークショップや地区委員会での講演及び情報交換を通して東京都の社会科教育の裾野を広げる。
- (5)コロナ禍以前に開催していた都中社研との合同研究会を開催するなど連携を充実させる。

今年度は、(1)から(5)までの重点取組が概ね実現できました。一年間、都小社研の研究活動にご支援いただきました皆様にご感謝申し上げます。

都小社研 研究発表会報告

東京都小学校社会科研究会調査研究部長
 府中市立府中第十小学校校長

草刈 あずさ

令和七年二月二十一日(金曜日)、

板橋区立上板橋第四小学校において、「社会とつながり未来を創る子供の育成」を研究主題とした研究発表会を開催しました。

当日は、第三学年「板橋区の様子」、第四学年「豊かな自然を守り生かす小笠原村」、第五学年「自然災害とともに生きる」、第六学年「地球規模の課題解決と国際協力」の授業を公開した後、学年別分科会と、文部科学省初等中等教育局教科調査官 小倉勝登先生にご講演いただいた全体会を実施しました。

への移り変わりへと関心をもたせたい実践を提案しました。

四年部会では、評価規準に到達できていない子供への具体的な手だてを明確にし、「水はどこから」において子供が驚きをもって追究した実践と、「自然災害からくらしを守る」において子供が自分ができることを選択・判断する実践を提案しました。

五年部会では、「これからの食料生産とわたしたち」において、稲作や水産業、野菜や果物生産、畜産全体の課題について考える実践と、「情報産業とわたしたちのくらし」に平時時と能登半島地震発生時の速報を取り上げ、放送にかかわる人の工夫を考える実践を提案しました。

学年別分科会では、都小社研の共通の研究の手だてである「単元構想」と「授業づくり」の二点について、各学年部会が、授業研究を通して研究を深めて内容を提案しました。

三年部会では、「大田区の様子」において、交通の広がり、地形や土地利用、人口などを関連付けて考える実践と、「江東区のうちりかわり」において、大きく移り変わってきた豊洲地区から区全体

六年部会では、小単元を通して象徴的な資料を取り上げ、子供が各自で追究する学習を展開し、「幕府の政治と人々のくらし」においては「江戸図屏風」、「明治の国づくりを進めた人々」においては「五箇条の御誓文」を取り上げた実践を提案しました。

特集 都小社研 研究発表会

研究主題

「社会とつながり」

未来を創る子供の育成

社会的現象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して

第三 学年

一 目指す児童像

三年部会では、「自分たちの暮らす区市町村への確かな理解を基に、社会的現象の特色や相互の関連、意味を考え、地域社会の未来を考えようとする子供の育成」と設定した。

二 実践の内容

(1) 「大田区の様子」

社会科入門期の調べる活動となる地域探検を重視した。自分たちの住む地域を調べたあと、

地域についての問いと予想を大切にしながら、「大田区全体はどうか」という問いに広げられるよう構成を工夫した。学習活動としては、社会的現象を比較・分類・総合・関連付けができるよう白地図にまとめる活動

を取り入れ、交通の広がりや軸

に作成した白地図を重ねたり比

べたりすることで関連付けなが

ら区内の様子は場所によって違

うことを考えられるようにした。

(2) 「江東区のうつりかわり」

子供が歴史分野を自分事とし

て捉えることができるよう、ゲ

ストティーチャーを招いて地域

の昔の話を聞くことから始めた。

地域のうつりかわりから、区の

うつりかわりに関心をもち、歴

史と人々の関係に着目するなど

見方・考え方を働かせて、問い

を追究できるようにした。ゲス

トティーチャーとの意見交換や、

区役所の方、豊洲町会長に自分

たちの考えを伝える活動を設定

し、江東区がもっとよくなるた

めに自分たちにできることを考

えられるようにした。

三 成果と課題

地域とのつながりを研究し、

深めることができた。第一単元

「区市の様子」で働かせた見

方・考え方を、子供たちが他単

元にも応用できる実践ができた。

一方で、三年生の発達段階に合

適切な発問、学習活動の工夫を、
今後も研究していく必要がある。

(町田市立町田第五小学校)

主幹教諭 小澤 智史)

第四 学年

一 研究のねらい

「自分たちの暮らす東京都への理解を基に、社会的現象の特色や相互の関連、意味を考え、東京都のこれからを考えようとする子供の育成」。これが、四年部会の目指す子供像である。

そこで、教材開発や分析を前

提として、主体的に問いを追究

しながら、見方・考え方が働く

学習活動を展開していく研究に

取り組んだ。

二 実践の内容

○ 「水はどこから」

①問題意識を高める工夫

家庭や学校での水の使い方とそ

の量、一九六四年の水不足を調

べ、子供の問題意識を高めて、

学習問題を作った。

② 「水の旅マップ」の作成

調べたことを関連付けるため

に、「水の旅マップ」を作成し、

飲料水が届くまでの流れを理解

させた。

③県内外の協力
東京都周辺の川やダムを取り

扱い、東京都と他県とのつながり
を調べることで、子供が相互
関係的な視点を意識できるよう
にした。

○ 「自然災害からくらしを守る」

①問題意識を高める工夫

関東大震災と東日本大震災を

調べ、子供の問題意識を高めて、

学習問題を作った。

②ゲストティーチャーの活用

地震災害への備えを考える学

習では、防災士と共に学習が進

められるようにした。

③学習計画と振り返り

ロイノートを活用し、一枚

のワークシートをデジタル化し、

子供がいつでも問いや振り返り

などを確認できる環境にした。

三 成果と課題

「つかむ」段階での学習を充

実させることで、子供から多く

の問いを生み、学習問題につな

げていくことができた。また、

「水の旅マップ」の作成やゲス

トティーチャーと共に学ぶこと

で、深い学びを実現することが

できた。今後も、教材開発や主

体的に問いを追究していくため

の手だてを考えていきたい。

(新宿区立四谷小学校
主任教諭 名取 慶)

第五 学年

一 研究のねらい

我が国の国土や産業の様子上に
ついて確かな理解につながる問
いや、社会的現象の特色や相互
の関連、意味を多角的に考える
ための問いをもてるように、新
しい教材を開発し、学習活動を
工夫すれば社会の発展について
関心が高まり、これからのより
よい社会の形成に関わっていこ
うとする子供が育つのではない
かと考え、研究を進めた。

二 実践の内容

(一) 「これからの食料生産とわたしたち」

本実践では、食料生産の大単

元を四つの小単元から構成した。

第一小単元において、食料生産

における課題を踏まえた大単元

の学習問題を設定することで、

食料生産全体を通じた発展を考

えながら、大単元を通して追究

し続けることができる展開に挑

戦した。問題意識を常にもって

学習を展開することができた。

(三) 「情報産業とわたしたちの

くらし」

本実践では、わたしたちのもの

とに情報が届くまでの時間に着

目し、通常時と災害時の報道を

第六学年

比較しながら追究する展開にした。また、NHKのアナウンサーや「つなぐ」段階での令和の米騒動を教材化して、情報リテラシーを高められるように学習を構想することで学習を生かした話し合いを展開することができた。

三 成果と課題

農林水産省の方や水産業に関わる人々、NHKアナウンサーなど、取材していくことで研推メンバーたちが実社会とつながることができた。そのことを通して、教材開発し、資料化することができた。また、それらの人と出会わせていくことで問題意識を高めたり、切実感ある学びを実現できた。一方で「つなぐ」段階の学習で社会的事象の仕組みや働きを学ぶ際に、習得した知識から選択・判断や発展を考えられる資料の内容にする必要があった。また、学習活動においては、今後も実社会のつながりを大切に教材開発を行い、資料や学習活動についても検証を行っていききたい。

(文京区立昭和小学校
指導教諭 寺本 大二)

一、研究のねらい

六年部会では、目指す子供像を「我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解を基に、社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の未来を考えようとする子供」と設定し、研究を進めてきた。

そこで、今年度は、教師が「象徴的な資料」と位置付けた資料（江戸図屏風や五箇条の御誓文）を活用し、問いや学習活動を工夫することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した。

二、実践の内容

(一)「江戸幕府と政治の安定」

小単元を通して江戸図屏風を活用した。「つかむ」段階では、江戸図屏風から疑問を見付け、「しらべる」段階ではその疑問を追究することができた。「まとめる」段階では江戸幕府の政策を江戸図屏風と関連付け、考える子どもの姿が見られた。

「江戸図屏風を読み取ると、江戸幕府がにぎやかで平和な生活を送れるように政治をして、平和な時代が続いたことがよく分

かった」と記述するなど、学習問題への考えが深まった。

(三) 明治の国づくりを進めた人々

小単元を通して五箇条の御誓文を活用した。「つかむ」段階では、五箇条の御誓文を基に、子どもが「国づくり」の視点を踏まえて見通しをもつことができた。「しらべる」段階では、明治新政府の政策について五箇条の御誓文を意識しながら調べていた。「まとめる」段階で、五箇条の御誓文と調べた内容を関連付けながら整理したことで、近代化や西洋の文化や仕組みを取り入れて国を発展させたことを、子どもが自分の言葉で説明することができた。

三、成果と課題

「象徴的な資料」を活用したことで、これまで関係図などにとまどめることに抵抗があった子どもも調べたことを関連付けながら考えをまとめることができた。小学校の歴史学習では人物の働きや、学習している時代の人々の立場になって考えることをより大切にしていきたい。

(板橋区立下赤塚小学校
主幹教諭 桑島 孝博)

研究発表会

講演

「社会とつながり未来を創る
子供の育成」の実現に向けて

文部科学省教科調査官
小倉 勝登先生

令和六年末に文部科学大臣諮問が出され、次期学習指導要領の改訂に向けた審議が動き出した。諮問は、令和六年九月の論点整理を併せて読んでいただきたい。今後の文部科学省の発信に注目していただきたい。

である。この結果を踏まえた改善点を意識した授業づくりのポイントを説明する。
まず、子供が問題解決の見通しをもつことが重要である。子供が社会的事象と出会い、問いをもつた後、子供たちの問いが学習問題に集約されているか、学習問題は目標の実現につながる適切なものか、学習問題の解決に正対した学習計画になっているか、何を基に予想をさせるのか、などを確認したい。

次に、子供が社会的事象の特色や意味を考え説明することが重要である。問題解決のために説明する、議論する活動を意図的に位置付けたい。

さらに、子供が自分の言葉などでまとめることが重要である。教師が抽象的にまとめて終わるのでなく、子供が自分の言葉などでまとめる活動が大切である。

最後に、子供が社会への関わり方を選択・判断することが重要である。これは、学習したことを基に考えることが大前提である。その上で、課題が明確か、根拠や理由が明確か、を大切にしたい。

(足立区立栗原小学校
高橋 陵)

「社会とつながり未来を創る」の関わり方を考えようとする」と

各地区の取り組み

新宿区 研究主題

「社会的事象の見方・考え方を働かせて問いを追究する児童の育成」
 ↳教科書+αで作る社会科学習」

全ての児童が手にしている教科書を主たる資料と捉え、その教科書をどのように扱うとよいか、そして授業の中にどんな工夫を入れると児童が社会的事象の見方・考え方を働かせることができるのかを研究し、提案してきた。具体的には①資料の工夫②学習活動の工夫③学習環境の工夫の三点を教科書+αとして捉え、各分科会で提案と検証を行いながら研究を進めた。

【実践一】 五年 「水産業のさかんな地域」
 四谷小 島谷直樹主任教諭

【実践二】 三年 「火事からまちを守る」
 落合第三小 土屋直子教諭

【実践三】 四年 「東京都の特色ある地域の様子」
 富久小学校 近藤直大主任教諭

これら三つの実践はどれも身近な事例を教材化したことで、児童の興味関心を高めることができた。

また、ICTを活用したことで、自らの学びを可視化できたり、共有できたりするなど、児童が学習に取り組みやすくなる学習環境を整えることができた。

(新宿区四谷第六小学校 主幹教諭 増田 郁夫)

中野区 研究主題

「楽しく取り組む社会科学習」
 ↳子どもが主体的に学習する授業づくりを目指して」

研究主題を一新し、子どもにとって楽しい学習を「主体的に取り組む学習」と捉えて、研究を進めた。今年度は特に、学習計画と個別最適な学びに特化した。七月 【実践一】 四年 「みの処理と再利用」

主体的な学習を目指し、学習計画づくりに主眼を置いて実践した。ICTを活用して考えを交流し、学習計画を練り上げた。

十月 【実践二】 六年 「今に伝わる室町文化」

受け継がれてきた(時間)、親しまれ広がった(空間)という二つの視点から室町文化の特色を捉えられるよう、学び合いにより考えを広げる活動を重視した。

十二月 【実践三】 三年

「火事からくらしを守る」

調べる内容をグループでランキングに整理することにより、視点の多様性や軽重を意識して考えを出し合いながら学習計画を立てることを目指した。

一月 【実践四】 五年

「情報を生かす産業」

身近な回転寿司店を教材化し、関心をもって学習に取り組めるようにした。また学習順序や方法の選択と交流により、個別最適化と協働の一体化を目指した。

(中野区立令和小学校 主幹教諭 和知 奈穂子)

狛江市 研究主題

「見えなかったものが見えるようになる社会科学習」
 ↳個と集団の力を高める授業づくりを通して」

狛江市では、「見えなかったものが見えるようになる社会科学習」↳個と集団の力を高める授業づくりを通して」と題して、

①主体的に追究する問いの工夫

②単元全体を見通した学習活動の工夫③個と集団の力を高める指導の工夫の三点を意識した実践に取り組んだ。

【実践一】 第六学年

「わたしたちの願いを

実現する政治」

人口減少などの社会課題に対して、自分たちがどのように関わっていけばよいか、自分事として考え伝え合う実践に取り組んだ。

【実践二】 第三学年

「販売の仕事」

教師自身がインタビューを行った動画を資料化することで、今まで児童が見えなかった店の人の仕事について見えるようになることができた。

【実践三】 第六学年

「江戸の社会と文化・学問」

当時の浮世絵の広まりや学問の発展を教材化することで、児童が興味をもったり学習の見通しをもったりすることができた。

【実践四】 第五学年

「森林とわたしたちのくらし」

人工林の手入れの有無を視覚的に表現した資料を提示することで、森林の管理に携わる人々の工夫や努力に迫ることができた。

(狛江市立和泉小学校 主任教諭 吉原 亮)

八王子市 研究主題

「社会とつながり 未来を創る子供の育成」
 ↳社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に追究する学習を通して」

ここ数年は、都小社研と同じテーマで研究に取り組んでいる。

【実践一】 五年 (六月)

「稲作のさかんな地域」

調べ考える過程で、自由進度学習に取り組ませた。自由進度というより、順序選択学習であった。

【実践二】 四年 (九月)

「風水害からくらしを守る」

年の始めに能登地震が起り、一学期には水道の学習を終えている四年生には、切実な問題となった。人類の歴史は感染症・自然災害との戦いであるという講師の先生のお言葉が印象的であった。

【実践三】 五年 (十月)

「日本の工業生産の今と未来」

八王子市内の中小工場三社を教材化した。オンリーワンの技術をもつ中小工場が市内にいくつもあることがわかり、今後も開発を続けていきたい。

【実践四】 三年 (一月)

「八王子市のうつつりかわり」

第四単元を二つの小単元に分けた。(教育出版教科書と同じ) 前小単元での生活道具調べで、時代を三つの色に分け、本小単元でもその時代の物差しを活かした指導を行った。

(八王子市立下柚木小学校 主任教諭 藤井 桂子)